

市民委員会で頂いたご意見

第2回市民委員会(平成29年5月10日)

- 比較はなかなか難しいが、浸水想定区域外という事を考えるとA、B、Cの候補地は難しいのではないかと思うし、Dはちょっと狭いのではないかと思う。
- 移転問題で重点的に考えるのは、津波が起こる地震対策としての考え方が、老朽化による建て替えで利便性を考えるのか。何を重点に考えていくかということをしかりしないといけないと思う。利便性だけでなく、津波による災害対策を考えるべきでは。
- 広さについて、大きいところでは 10,000 m²を超えているが、5000 m²が広いか狭いかはコンパクトシティーを造っていく中での、庁舎の広さとのかわりがあると思う。
- 老朽化の問題や津波の問題、広さの問題など、どういう専門家委員の皆さんがご検討いただいたのか知りたい。
- 6つの観点、23項目を基準とした評価については、法令適合性などは△が○になることはないだろうが、例えば安全性など、埋立地に盛土するなど今後対策を講じることによって評価が変わることがあるのか。
- Bが良い、多くのメリット・デメリットはあるとは思うが、商店街に活気がない中で、駅の横に市庁舎ができるということは夢があると思う。
- これからの若い世代が、夢をもてワクワクするようなまちづくりができる庁舎を建ててほしい。
- 市庁舎は防災の拠点・復旧の拠点にならないといけないと思う。であれば応援の車両や避難者が集まるので一定程度の広い土地が必要になってくると思う。そう考えると狭いDが最終候補に残っていることに疑問を感じる。
- 津久見市の財政状況、財源を考えると緊急防災・減災事業債が一番ベター、他のはどうかと思う。
- 大きなお金をかけて庁舎を造るのだが、その負担は若い世代にかかってくる。そういった意味でも、若い世代が元気になるような議論をしていただきたい。

- 定住人口だけではなく、交流人口というか、津久見にかかわり続けてくれる人が増えるようなまちづくりをしていただきたい。
- 埋立地に建てるにしても、嵩上げや、1階部分を捨てるような建物の構造を検討すれば津波の被害を免れるのではないか。
- 防災、津波、地震対策が一番だと思う。お金はかかるかもしれないが、1・2階部分を捨てるような構造も必要だと思う。ただし、将来の子供たちの負担にならないように考えてほしい。
- 一極集中にならないように考えてほしい。一箇所やられたら津久見が全部ダメになるのではなく、市役所がやられたら代替避難場所があるなどの検討、まちづくりが必要ではないか
- 津久見の町は埋め立てが多い。その上に物を建てるとうち盤改良などで非常にお金がかかるので、埋立ては避けたほうが良いのではないか。
- 高齢化率が40%を超えて約10%の方が障害を持っているという状況を考えると、いろいろな施設が集中する埋立地に庁舎を建設してほしい。
- 保健センター的なものがあればよい、生活習慣病が多く医療費が高騰している中で、食生活改善の一環で庁舎の中に食堂があったらよいと思う。欲を言えばその中で障害者が雇用されるようになれば。